

令和元年度
Kokoro College Japan
学校自己評価結果報告書

令和2年4月1日

文部科学省・専修学校における学校評価ガイドライン
(平成25年) 準拠

1. 学校の教育目標 令和元年度

<ビジョン>

地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる

<ビジョンの実現に向けたテーマ>

地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する

<基本方針>

- 1) 岩永学園グループの組織体として秩序ある学校運営体制を確立する。
- 2) 留学生の日本語の向上のための講師研修の実施及び業務のスリム化を図る。
- 3) 安定した学校経営のために、重点化を図り全職員が協働して課題解決方策を図る。

<学校経営スローガン>

- 1) 介護に特化した日本語力の推進
- 2) 地域に信頼される日本語学校
- 3) 全寮制を生かした日本文化教育の推進

<重点教育目標>

- 1) 日本語能力検定試験(J-test含む)の合格率をN4:100%, N3:50%, N2:20%を目標とする
- 2) 大学進学を推進し、吉備国際大学等の提携校への進学を強化する
- 3) 留学生の地域行事への参加を推進する
- 4) 授業や寮生活でのマナー教育を推進し、社会生活が円滑に送られるように支援する

<具体的な対策>

- 1) 朝礼・日報・週報を生かした共通理解と改善点の方策を全職員で確認していく
- 2) 留学生に対し、分かりやすく、楽しく、身に付く授業が展開できるよう全講師で研究授業を公開し、授業力を高めていく
 - ① 各期1回の授業公開
 - ② グループ校合同研修会を年2回開催する
 - ③ 主任及び担任は授業計画を1週間前には作成し、非常勤講師への連絡調整を確実にする
- 3) 留学生の夢の実現のために、日本語能力試験を年に1回以上受験させる
- 4) 地域の関わりを重視した学校行事を設定する
 - ① 地域清掃ボランティア活動の参加
 - ② 地域のスポーツイベント等への参加

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ① 日本語能力検定試験は入学次年度に全員受験させる意識を作る
- ② 留学生のアルバイト就労実態把握を定期的実施する
- ③ 教職員の協働体制を明確にし、全教職員が各自努力目標設定し、業務を遂行する
- ④ 快適な寮生活が送れるよう学生自身による環境美化活動を推進する
- ⑤ 学生への評価活動を推進する(学習・生活態度に対しての表彰等)

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 (専門分野の特性が明確になっているか)	4	3	2	1	学校の理念は,教育必携や学生便覧等にも揭示され明確である。「等しく可能性を信じ」,「専門分野の深い知識」のみならず「誠実,気力,知恵と行動力」を育むことで「社会に貢献」する姿勢は専門学校の理念として相応しく,相応の人格と専門分野での知識・技能を備えた信頼される社会人を輩出することで社会に貢献することが目的である 【教職員アンケート 質問1 3.5】
・学校における職業教育の特色は何か。	4	3	2	1	グループ校に医療・福祉・介護分野に特化した専門学校を設けているため,特に介護分野を志す留学生としての日本語教育が育成されている。 【教職員アンケート 質問2 3】
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	4	3	2	1	将来的に日本で介護人材として活躍することを目的とした留学生の教育・輩出を心掛けており,地方の介護人材不足解消の一翼を担う。 【教職員アンケート 質問3 3.25】
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	4	3	2	1	留学生募集段階で現地にてパンフレット(英訳)配布等の広報活動を行い,周知している。また,学校が運営するSNSを通して在学中の留学生の様子を発信している。 【教職員アンケート 質問4 2.5】
・各学科の教育目標, 育成人材像は, 学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。	4	3	2	1	少子高齢化により日本での働き手不足に加え,日本での留学・就労経験を母国で活用する留学生の育成といった観点から,日本だけでなく母国でも活躍できる日本語教育を目指しニーズに応えようと努めている。 【教職員アンケート 質問5 3.25】

①課題

充実した日本語教育を推進するために,日本語教師の確保及び在籍講師の指導力の向上が求められる。

②今後の改善方策

講師の指導力を高めるために研修会を設定する。また,県内の大学と連携し,日本語教師の育成を行う。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(2) 学校運営

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・目的等に沿った運営方針が策定されているか。	4	3	2	1	介護分野で活躍する留学生の輩出と地域貢献を目的として、グループ内の介護に関する専門学校への進学や進学時の費用軽減のために奨学金制度を紹介するなど留学生を支援する体制を整えた運営方針を取っている。 【教職員アンケート 質問6 3.5】
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	4	3	2	1	介護分野を中心に多様な業界で活躍できる日本語力を身に付ける留学生の輩出を目的とし、運営方針に沿って、毎年度初めに2年3年後までの具体的な事業計画が発表されている。 【教職員アンケート 質問7 3.5】
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか。	4	3	2	1	校長を中心に意思決定を行っており、運営方針や事案対処については随時全職員で協議し意思決定を下している。 【教職員アンケート 質問8 2.75】
・人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	3	2	1	就業規則により明確に定められている。 【教職員アンケート 質問9 3.5】
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	4	3	2	1	教務担当の教育部と財務事務担当の総務部総務課がそれぞれ整備されている。必要に応じて各部門の主たる教職員で協議し学校としての意思決定を充実させている。 【教職員アンケート 質問10 3.5】
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	4	3	2	1	地域自治会への積極的参加を通じて、業界や地域社会へのコンプライアンス体制が整備されている。 【教職員アンケート 質問11 3.25】
・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか。	4	3	2	1	学校ホームページや学生募集活動などを通じ、求められている内容について、可能な限りの手段で積極的に外部への情報公開をしている。 【教職員アンケート 質問12 3.25】
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	4	3	2	1	授業報告をインターネット上にて常勤・非常勤講師全員で閲覧、編集できるシステムを構築しており、情報の共有を円滑化している。また、出入国在留管理庁への定期報告もインターネットを用いて行うことで効率化を図っている。 【教職員アンケート 質問13 3】

①課題

本校が示すシラバスを計画的に実施できるように各コースのカリキュラムを定期的に見直し、効率よく授業を実施しなければならない。

②今後の改善方策

4月・10月入学生の学習計画を全体像として見直す必要がある。例えば、どの時期に全校一斉に漢字コンクールやスピーチ大会を実施するかなどの計画を調整していく。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(3) 教育活動

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	3	2	1	国際社会に通用する日本語力育成のための指導計画が実施されている。また、入国遅延の補講体制も整えている。 【教職員アンケート 質問14 3.5】
・日本語科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	4	3	2	1	年間指導計画に基づき修業年限や学習時間、目標とする到達レベルが明確にされている。 【教職員アンケート 質問15 3.25】
・日本語科の4領域のカリキュラムは体系的に編成されているか。	4	3	2	1	初級日本語、初中級日本語、中級日本語、上級日本語のシラバスに基づき体系的なカリキュラム編成を行っている。 【教職員アンケート 質問16 2.75】
・実践的な日本語会話力を育成するカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	4	3	2	1	実際の会話に即した日本語力を身に付けさせるために、シャドーイングの導入を実施した。毎日20分程度のシャドーイングを通して、音便変化や方言等に対応できる柔軟な日本語力の定着を図っている。 【教職員アンケート 質問17 2.5】
・日本文化を習得できるように学校行事や日常的な指導が体系的に位置づけられているか。	4	3	2	1	地域行事への参加を積極的に取入れ、地元住民とのふれあいを通し、清掃観念や挨拶の仕方を学べるよう学校行事を設定している。 【教職員アンケート 質問18 2.75】
・授業評価の実施・評価体制はあるか。	4	3	2	1	前期は実施できていないが、後期に学生と教職員に対し授業評価アンケートを実施し、学校自己評価の評価材料としている。 【教職員アンケート 質問19 2.75】
・日本語力を客観的に評価するための日本語能力検定試験等が実施できているか。	4	3	2	1	全員受験し、N2,N3の合格者を出せたが、全員合格には至っていない。今後、合格率向上のための指導改善が必要である。 【教職員アンケート 質問20 3.25】
・成績評価・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	3	2	1	学則や各種規定により、日本語科の卒業判定基準は明確にされている。 【教職員アンケート 質問21 3.25】
・学生指導の情報を共有し、一丸となって指導に当たっているか。	4	3	2	1	朝礼時などに教職員で学生の情報を共有し、指導等に当たっている。また、定期的にグループ校日本語科全体で会議を実施し、情報共有や指導方針の統一などに努めている。 【教職員アンケート 質問22 3.25】
・上位校に向けた進学指導が計画的実施されているか。	4	3	2	1	進路希望調査を定期的に行い、進学に向けた取り組みを早めに実施してきた。 【教職員アンケート 質問23 3】
・授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか。	4	3	2	1	全講師は日本語教師としての要件を満たしている。 【教職員アンケート 質問24 2.75】
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	4	3	2	1	年に2回の講師研修会を実施してきた。 【教職員アンケート 質問25 2.75】
・職員の能力開発のための研修等が行われているか。	4	3	2	1	1月,3月,8月に全教職員対象の研修会を開催した。その他、必要に応じて教職員を選び適宜、外部の研修に参加させている。 【教職員アンケート 質問26 2.5】

①課題

日本語能力検定試験の合格率を向上させる。

②今後の改善方策

目標をN4～100%, N3～50%, N2～20%に設定し、その取組を計画的に推進しなければならない。

③特記事項

日本語能力検定試験に向けた能力別クラス編成は実施しない。各クラスでN4・N3・N2の順で実施していく。ただし、午前・午後クラスでの編成は、講師の配置が可能の為認められる。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(4) 学修成果

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・就職率の向上が図られているか。	4	③	2 1	日本語学校を卒業後、就労ビザを取得し実際に働いている卒業生はいない為、就職率の向上は判断できない。しかし、第1回卒業生が今年度専門学校を卒業し、就職先内定率も100%となっている。 【教職員アンケート 質問27 2.5】
・資格取得率の向上が図られているか。	4	③	2 1	日本語能力試験について、2年生は全員1回以上受験しており、N2,N3で合格者が出た。今後、更なる合格率向上の為、様々な取り組みの計画・実施を進めていきたいと考えている。 【教職員アンケート 質問28 2.5】
・退学率の低減が図られているか。	④	4	3 2 1	家庭の事情により止む無く退学・帰国することを望む学生は担任教員及び生活指導担当者にて相談に応じ、最終的には校長とも面談を行い退学を認めている。できる限り相談に応じ、支援を行うことで低減を図っている。 【教職員アンケート 質問29 3.75】
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	4	③	2 1	卒業生については、専門学校の担当者から進学先での様子を伝えていただくことがある。また、在校生はアルバイト先事業所から日本人以上の働きをするとの報告をいただくこともあり、日本人スタッフとの信頼関係が築けている。 【教職員アンケート 質問30 2.5】
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2 1	グループ校介護福祉科卒業生から進学先での勉強や生活について話を聞く機会を設けた。今後も卒業生の進学先での状況を調査した上で現状の教育活動改善に努めていく。 【教職員アンケート 質問31 2.75】

①課題

日本語能力検定試験の取り組みを強化し、卒業までに必ず2回以上受験させる。また、卒業までに全員N4に合格させる。

②今後の改善方策

受験させることが目標とならないよう、日常的に学生の意欲向上につながる取り組みが必要である。校内模試を実施し、成績上位者の発表・表彰を行う。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(5) 学生支援

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1					
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか。	4	③	2	1	過去にグループ校より進学した留学生の進学先を含め、学生が希望する分野の専修学校や大学から資料を取り寄せ選択肢を広げている。また進学ガイダンスへの引率も行い支援している。 【教職員アンケート 質問32 3】	
・学生相談に関する体制は整備されているか。	4	③	2	1	クラス担任や生活指導担当者を中心に生活や学習等の多様な相談を受けることが可能な体制を整えている。 【教職員アンケート 質問33 3.25】	
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。	4	③	2	1	校納金や進学時の入学金等の高額な支払が発生する場合は、銀行において利用可能な海外送金のための資料を作成し経費支弁者からの支援が円滑に進むよう支援している。また、グループ校進学時に利用できる奨学金制度に関しても十分に説明し、希望があれば制度受給を支援している。 【教職員アンケート 質問34 3】	
・学生の健康管理を担う体制はあるか。	④	4	3	2	1	定期的な健康診断を実施しており、突発的に体調及び精神面で健康が害されている場合は病院の紹介を行っている。必要があれば教職員が引率している。 【教職員アンケート 質問35 3.75】
・課外活動に対する支援体制は整備されているか。	4	③	2	1	年に最低1度はバスハイクやグループ校見学などを実施している。また花火大会などの地域行事へ可能な限り参加し、日本文化体験を行っている。 【教職員アンケート 質問36 3】	
・学生の生活環境への支援は行われているか。	4	③	2	1	公共交通機関だけでは十分に生活できる環境でない為、学校から学生に対し数人で1台の自転車を貸し出している。 【教職員アンケート 質問37 3】	
・保護者と適切に連携しているか。	4	③	2	1	入学志望者を現地で募集する際に学校や留学に関する説明を十分にを行っている。また、学生自身に深刻な問題が発生した際には保護者へ連絡し問題の解消を支援していただいている。 【教職員アンケート 質問38 2.5】	
・卒業生への支援体制はあるか。	4	③	2	1	不定期ながら、主に卒業生を対象に上級の専門知識や技能の公開講座を開いている。また、卒業生に対しても、就職や転職の情報交換の場を提供し、卒業後の支援にも努めている。 【教職員アンケート 質問39 2.75】	
・留学生のニーズを踏まえた環境を整備しているか。	4	③	2	1	都会に比べると交通面においての不便さが目立つため、学生が必要とする場合はオートバイクの使用を許可している。その際は国際免許証、保護者の了承や任意保険加入の確認を行った上で、最終的に校長が判断を下し許可を出している。 【教職員アンケート 質問40 2.75】	
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	4	③	2	1	進学先選択の際、卒業生が在籍している専修学校のオープンキャンパスへ参加する場合には職員が引率している。 【教職員アンケート 質問41 2.75】	

①課題

学生同士の交流が不足している。学業以外の面で他のクラスと接する機会を増やし、学校と寮での生活を充実させることで学習意欲を向上させ、活気ある学生生活を送れるようにする。

②今後の改善方策

地域行事への参加に加え、校内スポーツ大会など季節ごとに校内でのイベントを増やす。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(6) 教育環境

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1		
・施設・設備は, 教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	4 (3) 2 1	施設基準は満たしており, 学生の勉学に支障のない状態となっている。 【教職員アンケート 質問42 2.5】	
・学習を促進する学習環境として整備されているか。	4 3 (2) 1	各教室にモニターを設置し, 映画教室等で利用したり, 教室に日本語の本や漫画を置き, 日本語に触れる機会を作っている。 【教職員アンケート 質問43 2.25】	
・防災に対する体制は整備されているか。	4 (3) 2 1	防災訓練は最低年1回は全校で実施している。各設備の防災責任者が定められている。毎年度, 防災組織の指示系統が更新されている。 【教職員アンケート 質問44 2.5】	

①課題

防災訓練を実施しているが, 実際に訓練通り行動できるかは不明瞭である。

②今後の改善方策

日頃から火の取扱い等の注意や校内・寮内に避難経路等災害時に関する情報を掲示することで, より身近に感じてもらおう。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・学生募集活動は、適正に行われているか。	4	3	2	1 現地の日本語学校を直接訪問し、学生に対し学校説明を行っている。その後、入学希望者については再度訪問し直接の面接試験や筆記試験を実施しているため、入国管理局の定める12年以上の教育課程修了や150時間以上の日本語教育の修了または日本語能力試験5級の可否、経費支弁を正確に把握した上で募集活動を行っている。 【教職員アンケート 質問45 3.5】
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	4	3	2	1 学生募集活動において、進学・就職先を記載したパンフレット(英訳)を用いて募集しているため十分に理解は及んでいる。 【教職員アンケート 質問46 3】
・学納金は妥当なものとなっているか。	4	3	2	1 本校の学納金は、同分野の他の学校の平均的な水準と同等である。 【教職員アンケート 質問47 3.25】

①課題

新しい在留資格が設けられ今後専修学校・大学への進学を希望する留学生数の減少も考えられる。激化する外国人留学生の獲得競争において高い入学率を得るために日本語能力検定試験の合格者と大学進学者の増加を考え、長崎を中心に全国で活躍できる学生を教育しなければならない。

②今後の改善方策

日本語能力試験の合格率や大学・専修学校の指定校推薦等の掲示を行う必要がある。また、グループ校に医療・介護・福祉に特化した専門学校を設立しているため介護医療分野への進学を志す留学生を募集段階から募ることを目的に、実際に介護医療分野で活躍する卒業生の実態も提示する必要がある。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(8) 財務

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1			
・中期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	③	2 1	受け入れる留学生の増減を考慮し、経費の圧縮等による財務基盤の安定化を図っている。 【教職員アンケート 質問48 3.25】
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	③	2 1	予算作成に際して、理事長査定を実施し、適切な予算管理を行っている。 【教職員アンケート 質問49 3.25】
・財務について会計監査が適性に行われているか。	4	③	2 1	適時、内部監査を実施している。 【教職員アンケート 質問50 3.25】
・財務情報公開の体制整備はできているか。	4	③	2 1	公開している。 【教職員アンケート 質問51 3.25】

①課題

学生数が横ばいとなっていて、入学者についても横ばいになっているため、財務状況に課題がある。

②今後の改善方策

収入は、募集だけではなく、付帯事業等での収入を増やすことで改善を図る。
支出は、比率の高い人件費、奨学費、広報費を中心に削減を図る。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切:4, ほぼ適切:3, やや不適切:2, 不適切:1				
・法令, 学校設置基準等の遵守と適性な運営がなされているか。	4	3	2	1	学校教育法,設置基準等の法令に従った適性な運営がなされており,申請書,届出書,学校運営に係る記録等は確実に保管されている。 【教職員アンケート 質問52 3.75】
・個人情報に関し, その保護のための対策がとられているか。	4	3	2	1	学生個人に関する資料や在留資格認定証明書申請時に使用した資料等の個人情報に纏わるものは,常に職員が常駐する施錠可能な部屋での管理を行っており,部外者による閲覧,持ち出し等を制限している。 【教職員アンケート 質問53 3.25】
・自己評価の実施と問題点の改善を図っているか。	4	3	2	1	学校自己評価委員会のもと,各項目に対して,自己評価を実施し,各部局,学科でそれぞれの問題点は具体的に把握し,PDCAによる点検と改善を推進している。 【教職員アンケート 質問54 3.25】
・自己評価結果を公開しているか。	4	3	2	1	学校自己評価結果は学校ホームページ上で公開している。 【教職員アンケート 質問55 3.25】

①課題

個人情報等の保護について,データのバックアップ体制を強化する必要がある。

②今後の改善方策

ハードディスクによる個人情報等のデータバックアップを行い,保管するよう努めていく。また,情報の管理・廃棄についても継続して細心の注意を払うよう努める。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1		
<p>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。</p>	4	③	2 1
<p>・学生のボランティア活動を奨励, 支援しているか。</p>	4	③	2 1
<p>・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか。</p>	4	③	2 1

①課題

地域行事として自治区の小学校運動会へ参加し交流を図っているが、互いの文化を知る機会として十分とは言えない。今後は近隣の児童・学生との文化的交流の場を作ることが大事と考える。

②今後の改善方策

市教育委員会等へ依頼し、地域の児童・学生との異文化交流の場を作れるよう計画する。

③特記事項

なし

3. 評価項目の達成及び取組状況

(11) 国際交流

評価項目	適切: 4, ほぼ適切: 3, やや不適切: 2, 不適切: 1				
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか。	4	3	2	1	グループ校に医療・福祉・介護分野の専門学校を設置していることを掲げ、今後全国的に発生する介護人材不足の解消を目的に介護分野を志望する学生を多く募集している。 【教職員アンケート 質問59 3.5】
・留学生の受入れ・派遣, 在籍管理等において適切な手続き等がとられているか。	4	3	2	1	出入国在留管理庁の定める募集要項に従い適切な留学生の受け入れを行っており、在籍管理についても受け入れや卒業、退学除籍に関する手続きも行っている。 【教職員アンケート 質問60 3.5】
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか。	4	3	2	1	国ごとに異なる生活習慣や文化を考慮しつつ、学生間の衝突が発生しないように指導を行っている。また、日本の文化と自国の文化の差異から生じる法的な問題を意識した校則の制定に努めている。 【教職員アンケート 質問61 3.5】
・学習成果が国内外で評価される取組を取っているか。	4	3	2	1	国内外での評価には至っていないが、日本語能力試験(N2,N3)の合格者をより多く輩出するための指導を行い、学生の日本語の学習成果を競う機会としてスピーチ大会を実施している。 【教職員アンケート 質問62 3】

①課題

今後さらに多国籍化することを考慮し、常に現状の規則や指導が適切なものであるかを協議する必要がある。また希望する進学を実現させるため、学習意欲の向上に努める。

②今後の改善方策

規則違反や教職員による指導が必要になる前に職員間で現状の把握、見直しを目的とした会議を行う。早い段階で進路希望調査を行い、より学生の希望する専修学校や大学進学に向けた学習指導を行える体制を作る。

③特記事項

なし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

令和元年度

令和元年度の総括

- ① **日本語能力検定試験は入学次年度に全員受験させる意識を作る**
合格率を上げるため、前年度同様3校合同で統一模試を実施した。講師や学生が本番を想定し、更なる対策を講じることができたが、結果は満足いくものではなかった。今後は入国時から検定試験に向けた意識作りを行い、N3～50%、N4～100%の合格率を目指したい。
- ② **留学生のアルバイト就労実態把握を定期的実施する**
週28時間という規定を守るよう入国時オリエンテーションや長期休暇前などに学生への周知・指導を徹底した。また定期的にアルバイト先へ連絡・訪問を行い、学生の仕事内容や勤務態度などを伺っている。今後も各事業所との連絡を定期的に行い、信頼される学生を育てていきたい。
- ③ **教職員の協働体制を明確にし、全教職員が各自努力目標設定し、業務を遂行する**
教務・総務部ともに新PDCAに設定した努力目標達成に向け、全教職員で協力し業務にあたった。また、3か月ごとの校長によるヒアリングを行い、さらなる学校運営の円滑化を図った。今後も業務分担を明確にしなが、協働体制を強化していきたい。
- ④ **快適な寮生活が送れるよう学生自身による環境美化活動を推進する**
備品の充実を図り、入国した日から生活できるよう家電・物品は最低限準備している。前年度に比べ学生数は減少したが、ネパール国籍の学生が中心となったことによる問題も発生した。文化の違いや語学力不足によるものが多く、家電製品の使い方や整美指導などを徹底する必要がある。今後は老朽化に伴うトイレ等設備メンテナンスも考えなくてはならない。
- ⑤ **学生への評価活動を推進する(学習・生活態度に対しての表彰等)**
今年度該当者がいないこともあったが、それぞれの学生の良さを認める努力も必要と考える。

1. 学校の教育目標 令和2年度

<ビジョン>

地域の医療・福祉を包括的に支援できる組織になる

<ビジョンの実現に向けたテーマ>

地域社会から必要とされる組織であり続ける
地域社会から必要とされる人材を提供する

<基本方針>

- 1) 岩永学園グループの組織体として秩序ある学校運営体制を確立する。
- 2) 留学生の日本語の向上のための講師研修の実施及び業務のスリム化を図る。
- 3) 安定した学校経営のために、重点化を図り全職員が協働して課題解決方策を図る。

<学校経営スローガン>

- 1) 授業の工夫と効率化
- 2) 地域に信頼される日本語学校
- 3) 全寮制を生かした日本文化教育の推進

<重点教育目標>

- 1) 日本語能力検定試験(J-test含む)の合格率をN4:100%, N3:50%, N2:20%を目標とする
- 2) 大学進学を推進し、吉備国際大学等の提携校への進学を強化する
- 3) 留学生の地域行事への参加を推進する
- 4) 授業や寮生活でのマナー教育を推進し、社会生活が円滑に送られるように支援する

<具体的な対策>

- 1) 朝礼・日報・週報を生かした共通理解と改善点の方策を全職員で確認していく
- 2) 留学生に対し、分かりやすく、楽しく、身に付く授業が展開できるよう全講師で研究授業を公開し、授業力を高めていく
 - ① 各期1回の授業公開
 - ② グループ校合同研修会を年2回開催する
 - ③ 主任及び担任は授業計画を1週間前には作成し、非常勤講師への連絡調整を確実にする
- 3) 留学生の夢の実現のために、日本語能力試験を年に1回以上受験させる
- 4) 地域の関わりを重視した学校行事を設定する
 - ① 地域清掃ボランティア活動への参加
 - ② 地域のスポーツイベント等への参加
 - ③ 安中地区公民館祭りへの参加

2. 令和2年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- (1) 日本語能力検定試験は入学次年度に全員受験させる意識を作る
 - ・第1回目の受験者は10月生全員が受験する。(N4、N3)
 - ・第2回目の受験者は全学生が受験する。(N4~N2)
- (2) 留学生のアルバイト就労実態把握を定期的に行う
 - ・各アルバイト先担当者との連絡を密にし、勤務態度を共有すると共によりよい生活が送れるように支援していく。
- (3) 教職員の協働体制を明確にし、全教職員が各自努力目標を設定し、業務を遂行する
 - ・職務領域とその責任を明確にし、自己評価から見出される課題を明確にしていく。
 - ・課題解決のために、その課題を全職員が共有し解決を図るようにする。
- (4) 快適な寮生活が送れるよう学生自身による環境美化活動を推進する
 - ・クラスごとに清掃活動日を設定し、パート職員と評価・支援活動を推進する。
- (5) 学生への評価活動を推進する(学習・生活態度に対する表彰等)
 - ・前期と後期には授業終了日に校長から次の表彰を行う。
 - ①成績優秀賞 (成績:A評価で出席率95%以上)
 - ②皆勤賞または精勤賞(年間の賞で精勤賞は95%以上とする)
 - ③功労賞 (地域行事の積極的な参加や学校全体に対する貢献度に応じて行うものである)上記の賞は予算の範囲でポイントカード等を授与するが、①と②については規程に達しない場合は表彰しない。(成績上位者から選定するものではなく、総合的に判断する)